



越前松平家と大安禪寺

●会場 2階 企画展示室
●会期 平成18年7月22日(土)~9月3日(日)

福井市の西北に位置する大安禪寺は、四代福井藩主松平光通によって、万治元年(1658)に大愚宗築を初代住職として創建されました。同寺には松平家の廟所(千畳敷)が作られ、歴代藩主により庇護されました。そこには福井の江戸時代が当時のまま残されているといつても過言ではありません。

本展は大安禪寺に伝来する多くの宝物の中から、歴代の藩主に関連の深いものを選び出し、作品にまつわるエピソードも交えて越前松平家と大安禪寺との約350年にわたる関わりを見るものです。祖先を敬う藩主と菩提所である寺院との深いつながりにより様々な宝物が蓄積されたこと、またこれらが歴代住職によって大切に守り伝えられ、当初の姿を伝えていることは大変貴重なことだと言えるでしょう。宝物を鑑賞いただくことにあわせて、藩主や住職らの心にも思いを馳せて楽しんでいただけましたら幸いです。

プロローグ～大安禪寺～

明暦3年(1657)、22歳だった四代藩主松平光通は、当時臨済宗の名僧として知られた大愚宗築と出会います。光通は、越前に寺院を建立して人生の師として彼を迎えることを切願し、大愚宗築もそれに応え大安禪寺が誕生することとなります。

同寺は万治元年(1658)の創建以来約350年の間、脈々と禪を実践する道場として福井の田ノ谷にあり続けています。ここでは禪寺としての大安禪寺の姿や、大愚宗築の遺品をご紹介します。

松平光通と大愚宗築

大安禪寺建立の目的は、光通自らが願主となって先祖の菩提所を作ることでした。大愚宗築によって選ばれた田ノ谷の地には、まず立派な廟所と本堂等主だった建物が整備されました。そしてそこで藩主光通と大愚宗築の交流がなされることになります。光通が高齢の大愚宗築を気遣う様子や、大愚宗築が最期の時を必ず大安禪寺で迎えると約束した話等が同寺の記録に残されており、二人の間に深い信頼関係が築かれていた様を垣間見ることができます。ここでは大安禪寺建立の経緯や、光通と大愚宗築の交流の様子をご紹介します。



26 松平光通坐像

光通が亡くなつて3年後に作られた等身大の木像です。
京都の大仏師康乗の作。



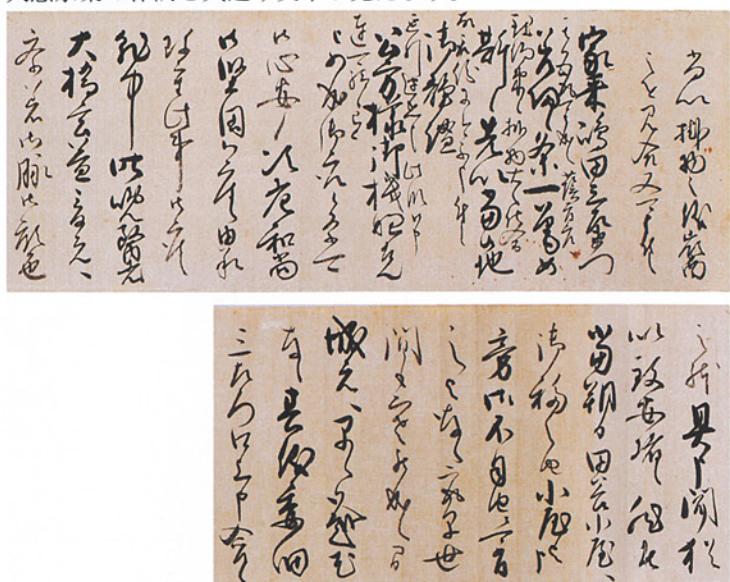
8 大愚宗築像

光通の望みで描かれました。

14 松平光通書状（部分）

江戸にいた光通から大愚宗築へ宛てた手紙です。

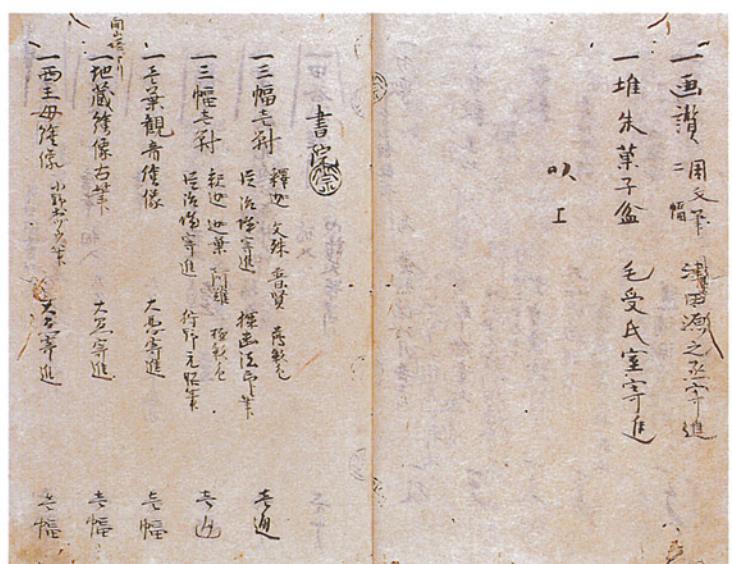
大愚宗築の体調を気遣う文章が見えます。



歴代藩主と大安禅寺

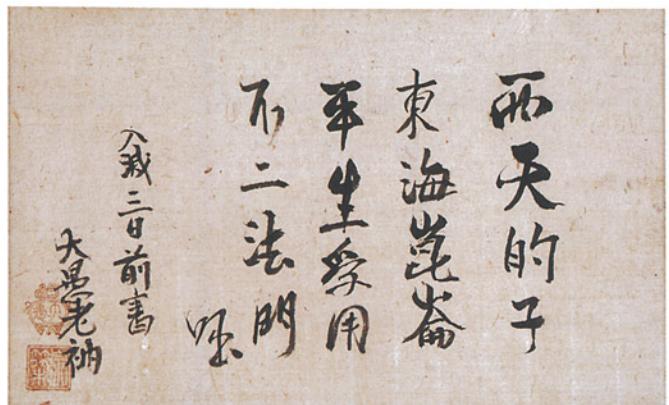
四代藩主光通に続く歴代藩主も、先祖の菩提所である大安禅寺と関わりを持ちました。同寺には藩主自作の作品や寄進された美術品、先祖の供養のために奉納された品等、数々の宝物が伝えられています。

ここでは藩主にゆかりの深い宝物やそれらにまつわるエピソードから、歴代藩主と大安禅寺のつながりを見ます。



17 交割帳

大安禅寺の寺宝目録です。什器や書籍・法具等の名称、数量、寄進者などが記されています。



16 大愚宗築墨蹟 遺稿

大愚宗築が光通との約束を守り、大安禅寺で亡くなる3日前に書いたものです。



29-1 ◎羅漢図

明兆筆と伝えられ、八代藩主松平吉邦から寄進されました。

城より来たる宝物

大安禪寺へ寄進された品の中には、元々福井城にあったとされるものがいくつもあります。これらは交割帳に「従御城」等と記されており、大安禪寺の宝物の中でも優品揃いです。ここではそのすばらしい作品をご紹介します。



37 釈迦三尊図

狩野探幽筆の釈迦如来・文殊菩薩・普賢菩薩の三幅対。大愚宗築の求めによって光通が作らせたものと考えられます。

エピローグ～越前松平家と大安禪寺～

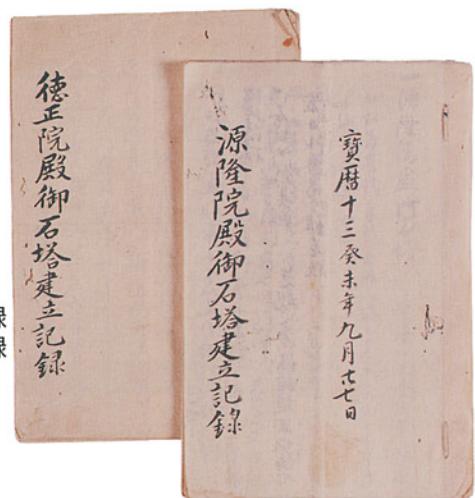
本展で紹介した品々は、すべて光通ら歴代藩主と大愚宗築以来の大安禪寺との関わり、すなわち人と人の交流により蓄積されてきたものです。それらは先祖を敬う歴代の藩主と、越前松平家の菩提所である大安禪寺の数百年の歴史に他なりません。今に伝わる宝物をとおして福井の江戸時代を感じることができるのは、大変貴重なことといえるでしょう。



参考図版 千畳敷

大安禪寺にある千畳敷と呼ばれる廟所には、結城秀康、光通ら8人の歴代藩主の石塔が建立されている。

43-1 德正院殿御石塔建立記録
43-2 源隆院殿御石塔建立記録
十代藩主宗矩(法名:德正院)
と十一代藩主重昌(法名:源隆院)
の墓(石塔)を建てた際の記録
です。



関連行事

シンポジウム

「大安禪寺・文化財の見どころ」

- 〈講師〉 吉岡泰英氏(福井県教育庁文化課文化財保護室室長)、澤博勝氏(福井県立歴史博物館・福井県教育庁文化課文化財保護室主任学芸員)、戸田浩之氏(福井県立美術館主査)、志賀太郎氏(徳川美術館学芸員)、高瀬裕美(当館学芸員)
- 〈日時〉 8月19日(土) 13:30~16:00
- 〈会場〉 当館2F講堂
- 〈定員〉 60名(当日受付)

展示解説シートNo.20 平成18年7月22日発行

福井市立郷土歴史博物館

〒910-0004 福井市宝永3丁目12-1
電話(0776) 21-0489 FAX(0776) 21-1489
担当 高瀬裕美、齋藤千穂

展示目録

No	作品名	作者	員数	時代	寄進者
プロローグ ~大安禪寺~					
1	本朝高僧伝		三二冊のうち一冊	宝永4年(1707)	宗普
2	大愚宗築遺品(数珠・払子)		一連・一柄		
3	松山歴代法語		一冊	安永7年(1778)	
4	大愚宗築墨蹟 法語	大愚宗築	一幅	江戸時代(17世紀)	
松平光通と大愚宗築					
5	万松山大安禪寺縁由	泉巖海玉	一冊	寛保元年(1741)	
6	家譜 光通公五 從寛永十三年到万治二年		二七二冊のうち一冊	明治時代(19~20世紀)	
7	松平光通像	狩野元昭	一幅	江戸時代(17世紀)	
8	大愚宗築像	〈贊〉自贊・貫十梵通筆 〈画〉狩野元昭	一幅	寛文元年(1661)	
9	由緒書		一冊	安政6年(1859)	
10	龜墓図		一紙	江戸時代(17~19世紀)	
11	鐘樓棟札		一枚	寛文3年(1663)	
12	当山図	參州曠洲	一幅	江戸時代(18世紀)	
13	松平光通寺領判物		一通	寛文元年(1661)	
14	松平光通書状	松平光通	一通	万治元年(1658)	
15	松平光通筆 「大道」	松平光通	一幅	江戸時代(17世紀)	
16	大愚宗築墨蹟 遺偈	大愚宗築	一幅	寛文9年(1669)	
歴代藩主と大安禪寺					
17	交割帳		一冊	江戸時代(17世紀)	
18	交割記	泉巖海玉	三冊	寛延3年(1750)	
19	黙印素周像	〈贊〉賛会 〈画〉了充雪曙齋	一幅	正徳5年(1715)	
20	本堂襖絵 十六羅漢図	狩野元昭	一六面のうち西八面	江戸時代(17世紀)	四代光通
21	竹林七賢商山四皓図屏風		六曲一双	江戸時代(17世紀)	五代昌親
22	梅椿図屏風		六曲一双	江戸時代(17世紀)	五代昌親
23	御影堂棟札		一枚	延宝5年(1677)	
24	照光院門跡筆 御影堂額字	照光院門跡	一幅	延宝5年(1677)	五代昌親
25	家譜 綱昌公十三 從寛文元年到延宝五年		二七二冊のうち一冊	明治時代(19~20世紀)	
26	松平光通坐像	康乗	一躰	延宝5年(1677)	
27	大安院様御後影仕様目録	康乗	一冊	延宝5年(1677)	
28	□双雀図	伝馬麟	一幅	中国・明時代(15~16世紀)	七代吉品
29	◎羅漢図	伝明兆	対幅	鎌倉時代(13~14世紀)	八代吉邦
30	松平宗矩筆 松獅子図	松平宗矩	一幅	江戸時代(18世紀)	十代宗矩
31	後水尾天皇宸翰 弥陀名号	後水尾天皇	一幅	江戸時代(17世紀)	十代宗矩
32	葵紋付切平緒 (松平宗矩装束のうち)		二筋	江戸時代(18世紀)	
33	六歌仙図		一巻	江戸時代(18世紀)	十二代重富
34	青磁八卦香炉		一口	中国・明時代(16~17世紀)	十二代重富
35	日光宮筆 和歌色紙	日光宮	一幅	江戸時代(16~19世紀)	十二代重富
36	松平治好筆 「万松」	松平治好	一幅	江戸時代(18~19世紀)	十三代治好
城より来たる宝物					
37	釈迦三尊図	狩野探幽	三幅対	江戸時代(17世紀)	四代光通
38	釈迦・阿難・迦葉図	〈贊〉大愚宗築 〈画〉狩野元昭	三幅対	江戸時代(17世紀)	四代光通
39	架鷹図屏風	橋本長兵衛	六曲一双	江戸時代(17世紀)	四代光通
40	押絵貼屏風	久隅守景	六曲一双	江戸時代(17世紀)	四代光通
41	十二ヶ月花鳥図屏風	秀信	六曲一双	江戸時代(17世紀)	七代吉品
42	後陽成天皇宸翰 和歌・漢詩色紙	後陽成天皇	一幅	桃山時代(16~17世紀)	
エピローグ ~越前松平家と大安禪寺~					
43-1	徳正院殿御石塔建立記録	清拙宗牧	一冊	宝暦6年(1756)	
43-2	源隆院殿御石塔建立記録	清拙宗牧	一冊	宝暦13年(1763)	
44	千疊敷図		一紙	江戸時代(18~19世紀)	

◎重要文化財 □県指定文化財

展示作品はすべて大安禪寺蔵。ただし、作品番号6『家譜光通五』と25『家譜綱昌十三』のみ越葵文庫蔵